

【 会 議 録 】（概要）

日 時	令和7年（2025年）11月20日(木) 9：30～10：30
会議名	令和7年度（2025年度）第2回越谷市総合教育会議
場 所	越谷市役所 本庁舎4階 庁議室
議事等	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 協議事項 （1）令和8年度教育行政における重点的な取組みについて 4. 閉会
資料等	別添のとおり
出席委員	【委員】 福田市長、野口教育長、五十畑教育長職務代理者、渡辺委員、山口委員、上原委員（6人）
事務局等	【関係職員】 小泉教育総務部長、會田教育総務部副参事（兼）教育総務課長、川澄教育総務部副参事（兼）生涯学習課長、坂巻スポーツ振興課長、濱田図書館長、小拔生涯学習課調整幹（兼）科学技術体験センター所長、小澤学校教育部副参事（兼）給食課長、千嶋指導課長、斉藤学校管理課長、田嶋教育センター所長、杉田学校管理課調整幹、浜崎教育センター調整幹、武内学務課主幹、梅田学務課主幹、原田学務課主幹、岡田学務課主幹（16名） 【事務局】 倉澤政策課調整幹、黒澤政策課副課長、大久保政策課主任（3人）
内 容	会議録のとおり

会議録

司会：倉澤政策課調整幹

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項 (1) 令和8年度教育行政における重点的な取組みについて

○司会

ただいまから「令和7年度第2回 越谷市総合教育会議」を始めます。

私は、本日進行を務めます政策課の倉澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず資料の確認をいたします。次第、資料1 令和8年度教育行政重点事業一覧表（予算要求段階）新規・拡充事業抜粋版、資料2 令和8年度教育行政重点事業一覧表の3点でございます。

不足等はありませんでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○司会

そして、本日は机の上に1人1台のマイクを置かせていただきました。恐縮ですが、発言をされる際には、お手元のボタンを押してご発言いただき、もう一度ボタンを押しますと、マイクが切れる仕組みになっておりますので、ご協力お願いします。

それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。

○福田市長

おはようございます。本日は、ご多用の折にもかかわらず、令和7年度第2回総合教育会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日の会議では、「令和8年度教育行政における重点的な取組について」ご協議をいただきます。近年、人口減少や少子化への対応のほか、夏場における暑さ対策など、教育を取り巻く環境が厳しさを増すなか、本市といたしましては将来をしっかりと見据え、本日のような会議を通じて教育委員会の皆様と連携を図りながら、次代を担うこども達のために様々な課題の解決に努めていきたいと考えております。

今後もみんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちの実現に向けて各施策に全力で取り組んでまいりますので、皆様には引き続きのご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会

続きまして、本日の会議の公開、非公開について確認をさせていただきます

ます。

本日の会議につきましては、非公開とすべき内容がございますので、公開とし、傍聴についてもこれを可能としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○司会

ありがとうございます。

それでは、本日の会議は公開とさせていただき、傍聴可能といたします。本日、傍聴を希望されている方はいらっしゃいますか。

○事務局

いらっしゃいません。

○司会

それでは、協議事項に移らせていただきます。

本日の協議事項は1件、令和8年度教育行政における重点的な取組についてでございます。お配りした資料に基づき、基本目標ごとにご協議いただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を推進する」について、学校教育部から説明をお願いします。

○小澤学校教育
部副参事

それでは、教育振興基本計画における3つの基本目標ごとに、令和8年度に本市の教育行政として重点的に取り組んでいきたいと考えております内容につきましてご説明をいたします。

お手元に2種類の資料をお配りいたしました。資料1は、重点的な取組のうち、主に新規及び拡充事業について基本目標ごとにまとめたものでございます。資料2は、重点事業の内容について詳細に記載したものでございます。

なお、拡充事業の考え方でございますが、資料2の1ページ下段をご覧ください。

ソフト事業につきましては、内容の見直し等に伴い新たな取組みに着手する事業や、内容の検証等に伴い新たなテーマ設定や視点の追加、実施期間の延長などを行う事業、さらに人員の増加など実施体制を強化する事業を位置づけております。

また、ハード事業につきましては、既存機能を維持するための修繕等ではなく、新たな機能の追加を行う工事、改修、修繕を行う事業について位置づけており、拡充事業を整理しております。

本日は、資料1を基に、主に新規及び拡充する取組みについてご説明い

たしますが、併せて資料2もご参照いただき、ご協議いただきたいと存じます。

初めに、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を推進する」についてでございます。こちらは、学校教育の分野における取組みとなっております。

「施策の方向1 9年間を見通した越谷教育を推進する」につきましては、施策「特色ある教育課程の推進」の「学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の推進」では、小中一貫教育に関する研究指定と各校の研究推進への支援に努め、「わくわく感のある授業」、「生徒指導の実践上の4つの視点」、「4—3—2制による小中一貫教育」の実践を重点とした取組みへの支援と訪問指導を実施するとともに、小中一貫教育に関する各ブロックに対する研究推進への支援に努めてまいります。

また、「教科等横断的な特色ある教育課程の推進」では、第3期小中一貫教育研究推進実施計画に基づき「小中一貫教育プロジェクト委員会」を設置するとともに、4—3—2制による小中一貫教育の情報提供や校内研修実施への支援に努めてまいります。

次の施策「小中一貫型小中学校の整備と将来を見据えた学校施設の検討」では、学校施設の適正規模、適正配置に係る調査審議を行うための審議会を設置し、市民等との協働による検討及び協議をしてまいります。

次に、「施策の方向2 確かな学力を育む」でございますが、施策「新しい時代に求められる資質・能力の育成」の「指導内容・指導方法の改善」では、川柳小学校高学年における民間プールを活用した水泳授業や、大袋小学校における民間プールを活用したより良い水泳授業の実施、改善に努めるとともに、民間プールの指導者による担当教職員への指導法向上に向けた実技研修を実施し、「越谷市における水泳授業の在り方について」を踏まえた各学校の実態に応じた今後の水泳事業を検討してまいります。

また、「英語教育の推進」では、海外の学校とのオンライン交流を実施するなど、小中学校における英語教育充実のための環境整備に努めるほか、「学校図書館の充実」では学校司書の増員と効果的な配置など、学校司書の活用に努めてまいります。

次に、「施策の方向3 豊かな心を育む」でございますが、施策「豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実」では、体験活動や学校、家庭、地域、関係機関等との様々な交流を通し、児童生徒の自己肯定感の高揚や協

働する能力の育成に努めてまいります。

施策「教育相談体制の充実といじめ防止対策の推進」では、教育相談体制の強化に向け、学校相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや学び総合指導員、教育相談員の増員など、原因や内容が複雑化し、長期化する教育相談への適切な対応に努めてまいります。

次に、「施策の方向4 健やかな体を育む」でございますが、施策「学校給食施設の維持管理・整備」では、越谷市学校給食施設整備基本計画を策定し、学校給食施設整備に向けた検討をしてまいります。

次に、「施策の方向5 自立する力を育む」でございますが、施策「障がいのあるこどもへの支援と指導の充実」の「特別支援教育のための環境整備」では、特別支援教育支援員の増員など、児童生徒の豊かな学校生活と円滑な学校運営のための支援に努めるほか、特別な支援を必要とする児童生徒に応じた学びの場として、特別支援学級及び通級指導教室の計画的な設置運営に努めてまいります。

次の施策「不登校児童生徒への支援」の「不登校の未然防止対策の推進」では、校内支援教室（スペシャルサポートルーム）の増設や人員増など、家庭、学校、教育センター等が連携した総合的な不登校対策の実施に努めてまいります。

次の施策「一人ひとりの状況に応じた教育支援」の「日本語を母語としない児童生徒への支援」では、日本語指導員の増員や効果的な配置など、児童生徒の豊かな学校生活のための日本語学習支援に努めてまいります。

次に、「施策の方向6 質の高い教育環境を整備する」でございますが、施策「学校の組織運営の改善」の「働き方改革の推進」では、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置期間の延長などの取組みを実施するほか、「地域と連携・協働した教育の推進」では、休日の部活動の地域展開に向けた会議の開催やモデル事業を実施するほか、部活動の外部指導者、部活動指導員の増員による部活動支援体制の強化等に努めてまいります。

次の施策「安全・安心で快適な学習環境の整備・充実」の「快適な学校環境の整備と充実」では、暑熱対策として特別教室等への空調設備整備に向けた検討をしてまいります。

○司会

ありがとうございます。

ただいま説明がございました基本目標 1 に関してご協議をしていただきたく存じます。

まずは、福田市長、いかがでしょうか。

○福田市長 「英語教育の推進」について、資料 2 を見ると海外の学校とのオンライン交流の実施とあるのですが、これはどのような形で行うのか教えてください。

また、「体験・交流機会の充実」について、アンケート調査を行った結果、体験が重要であるということを捉えて、これを充実していくという流れだと思うのですが、どのようなことを拡充していくのか教えてください。

あとは、「不登校未然防止対策の推進」のスペシャルサポートルームについて、年に 5 校ずつ整備していると認識していますが、どれくらいの方が利用しているのでしょうか。

○千嶋指導課長 まず、1 点目の海外の学校とのオンライン交流でございますが、外国語指導助手を派遣し、キャンベルタウンの学校と交流をいたしました。昨年度は北陽中学校、今年度は栄進中学校の 2 年生がキャンベルタウンの中学生と交流するといった授業を 2 時間実施しました。

また、川柳小学校でも同様に行っており、来年度もこのような形で行っていくことを考えています。

2 点目でございますけれども、体験活動の充実に関しましては、コロナ禍では体験活動ができなくなってしまったという現状がありました。ご存じのとおり、体育祭や運動会、バザーなど、地域の方々と関わったりする、地域の方々を呼んだりするというものがほとんどできなくなったところです。

ただし、そういった活動は必要だと捉えておりますので、コロナ禍が終わったことから、今後はその辺りも力を入れていきたいと考えています。

また、中学校では、コロナ禍前は事業所に協力していただきながら、中学校 15 校全てで職場体験学習を 2、3 日実施しておりました。それがコロナ禍によりほぼなくなって、昨年度からまた中学校 2 校で復活をしております。子ども達にとって職場体験は必要と捉えておりますので、教育委員会から働きかけ、各校で検討していただいている状況です。

○田嶋教育セ 3 点目のスペシャルサポートルームにつきましては、自分の教室に入り

ンター所長 づらい児童の学校内の居場所と学びの場を確保し、不登校を未然に防止するという目的の下に取組みを始めています。令和6年度に5校、令和7年度に5校整備し、最終的には小学校全校にということで5校ずつ設置を進めていく計画でございます。

ご質問の実績ですけれども、いま手元にある数値が令和6年度の数値でございます。初年度ということで、年度当初は準備を進めました関係もありまして、実際にこども達が通い始めたのが9月からでございます。9月から年度末までの実績ということで5校の状況を見ますと、実人数が12名、延べ利用人数が158名となります。

このスペシャルサポートルームでございますが、小学校に配置をしている学校相談員が運営し、こども達の自学自習に対応していきます。人と人との関わり、つながりにより実施をしているものであることから、毎日の開設ではなく、週1日のみの開設を基本としております。

教育委員会といたしましては、この学校相談員の配置を週1日から拡充し、目指すところとしては中学校と同様に学校相談員1人が週5日、各校に配置できるように整備していきたいと考えております。

○福田市長 オンライン交流会について、中学2年生で実施する理由、そして学校側の負荷が大きいからなのかもしれませんが、年間1校ずつの実施としている理由を追加で教えてください。

○千嶋指導課長 中学校1年生ですと基本的な英語の学習を行っている段階で、3年生ですと受験等もあることから、2年生が適当であろうと考え、先ほど申し上げた外部指導助手を派遣している会社と協議し、そういった計画を立てているところです。

年間1校という点についても、昨年度から、まずは1校ということで実施しておりますが、徐々に増やしていきたいと考えております。

○福田市長 ありがとうございます。

キャンベルタウンの派遣事業は対象を2年生に限定していましたか。

○千嶋指導課長 例外はありますが、2年生を対象としております。

○福田市長 オンライン交流会などで、キャンベルタウンのこども達との交流が先にあると、派遣事業の参加に積極的になってくれると思いました。タイミングが合えば、キャンベルタウンに行ってみたいという人が多いのではない

かと思っています。

○千嶋指導課長 繰り返しになりますが、中学校においては、2年生で様々な活動をしていく傾向がございます。1年生は学校自体に慣れていくということ、3年生は受験に向けてということもあるので、2年生が中心になっていろいろな活動することから、派遣者は基本的に2年生を対象としております。

○野口教育長 国際交流についてですけれども、二十数年前は各小中学校で姉妹校というのをハワイ州で作り交流していた時期もありました。その頃は、インターネット環境がここまで整備されておりましたので、頻繁にやり取りすることが難しかったのですが、これだけ環境も整ってきたので、少しでも進めたいと思っています。

○福田市長 キャンベルタウン市は、人口は本市よりも少ないですが、急激に人口が増えていると聞いています。

中学校が何校あるかは不明ですが、姉妹校のようなかたちになれば、交流も可能なのではないかと教育長の話聞いていて思いました。

話が変わりますが、スペシャルサポートルームの件で、いま学校相談員が週1日しかないということでした。この学校相談員は何か資格が必要なのでしょうか。

○田嶋教育センター所長 現在学校相談員は会計年度任用職員という位置づけになっていますけれども、制度開始時は有償ボランティアという扱いでした。お問合せの資格については特段必要なものはございません。ただ、こども達に対する、教育に対する理解や取組みへの思いを大事にしております。

実際の状況を見ていると、退職をした教員が相談員になられていたり、県の家庭教育アドバイザーの講習を受け、資格を持たれている方がなられていたり、心理職等の資格を所有している方もいる状況です。

○福田市長 スペシャルサポートルームの稼働が週に1度である理由としては、人手不足というよりは、予算が一番ネックになっているところなのか。

○田嶋教育センター所長 現実としては、市長がおっしゃるとおりでございます。

ただ、今回の教育振興基本計画策定に当たり、こども達の声を聞いたり、第1回総合教育会議でも足立委員さんからご指摘いただいたりするなかで、学校相談員さんが毎日学校にいてくれることによって話を聞いてもらえるといった声があります。

1人の相談員が週5日配置できるよう教育委員会としてもしっかり対応しなくてはならないと考えています。

○司会

ただいま市長から英語教育、国際交流、不登校児童生徒への対応の関連でお話でしたが、これに関連して、あるいは別のことでも結構ですけれども、教育委員さんのほうから何かご意見、ご質疑はございますか。

○渡辺委員

予算にも関係するかもしれないのですけれども、現在は、例えば不登校児童に対しては学校相談員がいたり、先生の仕事の補助としてスクール・サポート・スタッフさんがいたり、英語に関してはALTの方がいたり、様々な方が学校教育にご支援いただいていると思います。

私が学校を見るなかで、越谷市に限らないのですけれども、特別な配慮や支援が必要なお子さんとが1クラスにだいたい3、4人います。

これは文科省の統計でもあったのですけれども、ある学校では、1人の学習支援員が2つのクラスを持っており、場合によっては1階、2階を行ったり来たりしている状況があるということです。

この辺りの支援について越谷市はどうなっているのか教えてください。毎日学校に来ているが、授業が分からないで教室にいるお子さんに対しての支援というのが今どうなっているのかをお聞きしたいです。

それと、気になっているのが、これもたまたま夕方のニュースを見ていてなのですけれども、外国人のお子さんが日本語も分からないまま保護者の都合でいらっしゃる状況があります。その子が学校に行くと、日本語が分からなく、言葉が分からないため、不登校につながることもあります。そして、中学校が不登校のまま終わると高校にも行かずに、そこで地域が荒れてくるということを聞いています。

そこでまず、越谷市の場合には日本語を母語としない児童への支援として、小学校であれば具体的に週何回ぐらい、どのような支援をしているのかについて教えてください。

○原田学務課
主幹

特別支援を要するこどもへの支援として、特別教育支援員を配置しております。現在、市内小中学校全44校に配置しておりまして、学校の要望を受け、配置を進めているところでございます。

本年度当初は88名配置していたのですが、9月からそれを91名に増員して対応しているところです。

ただ、それでもまだ十分でないことは承知しておりまして、学校からは

まだまだ特別な配慮を要する子がいるという要望を受けていることから、引き続き増員を検討していかなければいけないと考えております。

また、特別教育支援員はいろいろなクラスを担当するため、1時間のなかでも例えば1年1組から1年2組へ行き来して対応している様子は、実際に教育委員会の担当も学校を訪問して様子をうかがっているところです。

また、昨年度から支援員を対象とした研修会も始めておりますので、支援員一人ひとりのスキルアップ、それから増員という両面で支援していきたいと思っております。

○野口教育長 特別教育支援員について、現在91名を配置していると言いましたけれども、その数倍の要望が上がってきているのが実情で、これを予算の範囲内で採用している状況です。

支援員についても2種類ありまして、特別支援学級の支援員と普通学級にいらっしゃる特別な支援を要するお子さんに対する支援員があります。

この内訳は分かりますか。

○原田学務課主幹 令和7年度当初においての数字となりますが、小学校の特別支援学級は36名、中学校は17名、通常学級の小学校は32名、通常学級の中学校は3名となっております。

○渡辺委員 予算がないからお願いできないということですか、それとも希望者がいないということでしょうか。

○原田学務課主幹 委員さんおっしゃるとおり、両方の側面があるのは事実でございまして、確かに予算のこともあるのですが、特別支援員については有資格者として教員免許状を持たれている方や、そのほかにも何個か資格を持った方を条件としており、誰でもいいというわけではございません。

一方で、支援員をやりたくて、待機していただいている方がたくさんいるかという、現状そうではないので、実際は有資格者の方をいろいろなツールで声かけしています。

支援員のなり手を探すところも苦慮しながら、何とか増員を進めるという状況です。

○福田市長 特別教育支援員の人件費は全部市費なのですか。県や国から補助はあるのでしょうか。

○原田学務課 特別支援教育支援員については、全てを市費で賄っており、県や国の補

- 主幹 助金は入っていない状況でございます。
- 司会 渡辺委員さんからもう1件、日本語指導員に関する質問もございましたので、これについてのご回答もお願いいたします。
- 千嶋指導課長 日本語を母語としない児童生徒への支援ということで、本市といたしましては日本語指導員として現在32名の指導員が、小中学校合わせて135名の児童生徒に対して、週1回、2時間程度指導をしているといった状況です。
- 日本語を母語としないこども達については、全く話せない子から、日常会話は何となくできるなど、程度が様々です。
- 時間数に関しては様々な意見があるかと思いますが、今のところ教室でクラスのこども達と関わることも必要であることから、指導員数の問題もありますけれども、週1回、2時間程度の指導ということになっております。
- 渡辺委員 例えば、日本の小学生が英語を週1回2時間やっただけで話せるようになるとは到底思えないので、週1回2時間、平日に普通の授業から抜き取って行うというのは、効果がないとは言いませんけれども、もう少し増やしたり、土曜日に行ったりするなどを検討した方がいいのではないかと思います。
- 予算の関係もあるかと思うのですが、特に問題になっているのは中学校を卒業した後で、日本語が分からないと高校も受け入れが難しい状況のようですので、この辺りはてこ入れをしたほうがいいのではないかと感じました。
- 野口教育長 私も現場にて、日本語指導員にお世話になった経験はありますけれども、週1回2時間程度なのではありますけれども、言葉を2時間教えるというよりも、2時間の中で指導員さんと会話ができるという楽しさをこども達は持っていたようです。
- と言いますのも、マン・ツー・マンでやるものですから1人の大人を2時間だけでも独り占めできて、それが楽しいという感じを受けました。
- ただ日本語の指導を系統的行うよりも、こちらにも重点が置かれていると考えています。
- こども達は、必要性が高いためか、外国のお子さんも学校生活の中で日本語を覚えていきます。そして、最終的にはお子さんが通訳代わりになっ

て、学校と保護者の間でコミュニケーションを取るという例がありました。

年齢が若ければ若いほど早く日本語を習得するものですから、学習支援をしながら日本語を教えているという傾向がありましたので、日本語の系統的指導からすると、それほど効果的ではない場合もあると思うのですが、こどもからすると楽しい時間ということにはなると思います。

そして、2時間お預けできるので、その時間は担任にとっても負担が軽くなる時間という捉え方はされていると思っておりました。

ただし、対象人数が増えているものですから、予算を確保するのは大変な状況です。

土曜や日曜もといった話がありましたが、国際交流協会で日本語教室を開催しており、ポルトガル語や中国語など母国語の種類も幅広く、日本語指導員をご紹介していただくこともあることから、大変お世話になっているところです。

○千嶋指導課
長

令和4年度の日本語指導が必要である児童生徒が64人だったのに対し、今年度は135人ということで2倍以上になってしまったというところはございます。

先ほど違う件で話がありましたが、指導員さんは有償ボランティアで、特別な資格は必要としません。ただ、学校に全く関わってこなかった方もいらっしゃいますし、指導員の確保が厳しくなっているという部分もございます。

市では、日本語指導員というかたちで、こども達の支援をしておりますが、県費の日本語指導教員が本市では5名おりますので、どちらかというと日本語指導教員の方が日本語の習得といった部分の支援を得意としていると認識しております。

日本語指導教員は、現状で29校から要請があるなかで、5名で分担しながら対応しており、その方たちも含めて、本市の日本語指導員の方々と支援していきたいと思っております。

○福田市長

私も渡辺委員さんが言った認識と同じです。

この間、外国の方々の支援をしている団体の方と話していたときに言っていたのが、外国人の方に、同じ国の仲間ができると固まっていってしまう傾向があるということです。固まると何が起こるかということ、自分たちで情報が取れるようになり、地域とのコミュニティがなくなってしまうと

いうことが起こり、これは、あまり良くないことです。

こどもというのは、学校に来てコミュニティに入れる存在なので、こどもを中心にコミュニティが形成され、その子たちが地域に戻ってもつながりができるという関係を保つことが重要という団体の方の話を聞いて、私もこども達が学校に馴染んで、自分たちの保護者を含めて地域と関係をしっかりと持ってくれるということが、長い目で見ても大事だと思っています。

先日、日本語を母語としない児童に対して、一箇所に対象者を集め、集中的に日本語教育を行うことがいいのではないかとといった議論を実施しました。

これには移動を含めいろいろな課題があるとも聞いているため、これからの課題ですが、外国人が増えているのは事実なので、しっかりと考えていかなければならないという認識は持っております。

○司会 ほかに基本目標1に関連してご意見等ございませんでしょうか。

○山口委員 海外との交流であるとか、体験活動、職場体験など、普段の学級の外で行う活動についてなのですけれども、そういった活動というのは全て準備があると思います。そこに生徒がどれくらい関わっているのかということが分かれば教えていただきたいです。

と言いますのも、例えばコンサルタントがすべてお膳立てして、その場だけの時間だけになってしまうのか、それとも折衝したりしているところに、発言しないまでも、その場に生徒を何人かいさせてあげることで、普段の自分たちの生活といかに違うかということを気づく機会として、準備段階からの参加ということを活用できている事例があるのか教えてください。

○千嶋指導課長 準備段階において、児童生徒の関わりというものは、私の把握しているところではございません。今後、こども達にとってそういった部分も経験していくことが必要だと思いますので、事業者と調整しながら検討していかなければならないと感じました。

体験活動についても、今までの職場体験などは、どうしても学校の教員が受入れに係る折衝をし、こども達は当日のみであったと捉えております。

今後は、企画や調整の段階でも生徒が関わるができるかといった部分について検討してまいりたいと思います。

○野口教育長 体験活動については、アンケートを取るとこども達からやってみたいという意見が多く出ています。

不登校対策についても、体験活動をもう少し多くして、学校へ来る楽しみを持たせたいと思っています。

それと併せて、小中一貫教育に際しては、これまで、中1ギャップの解消が目標の一つでしたが、体験学習をとおして、中学校でも楽しいことがあるということを伝えていきたいです。

コロナ禍により体験活動等の実施が難しい状況になった期間があるのは事実でして、コロナ禍が終わった今、委員さんから出ている体験活動等を含めた総合的な不登校対策、これは必要であろうと考えております。

○千嶋指導課長 付け加えさせていただきますけども、こども達が体験活動をする上で、今現在は、こども達が交流や職場体験に向けて行う準備学習、当日の体験学習、そして、終わったあとの事後学習に取り組んでおります。

さらに企画の段階から児童生徒が参加するとなると、一段階上の貴重な体験になってくると思うのですけれども、現状でも、多くの時間を割いていると認識しておりますので、より良い手法について検討してまいります。

○五十畑教育長職務代理者 今までの話の中であったように、学校においていろいろな方が協力してくださるということが学校にとって一番嬉しいことだと思っています。

一人でも多く、資格のあるなしでいうと、どちらかというとあったほうがいいのでしょうけれども、支援してくれる協力者が学校内にいてくれることがどれだけ助かったかという経験をしてきました。

教育長も先ほどおっしゃいましたが、協力者は何人でも欲しいというのが現場の生の声です。特に1人に対して何人も先生が関わらなければならない児童生徒も入学してきます。そのときに校内では、改めて体制を整えて、その子を重視したような形で力を注ぎ込むということもありました。

このように考えると、予算の制約や、なり手の問題というのもあると思うのですけれども、とにかく一人でも多くの方を学校に入れてほしいというのは学校現場の生の声だと自分は捉えていますので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、不登校に関しては、重要な問題だと私も捉えておりますが、

越谷市の取組みは他市から注目されるほど充実していると思っています。他の会議に出たときに、「越谷市は本当にいいね」と言われたことを今でも覚えています。その理由として、各学校に配置されている支援員、教育センターの機能や相談体制が素晴らしいということでした。

不登校については、数が話題になったりしますが、本市の不登校発現率は、かなり優れた数字なのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○田嶋教育センター所長 先日も新聞報道でございましたとおり、全国的にも不登校の児童生徒数は増加傾向ですが、本市におきましては、小中学校ともに、前年度と比べて減少しています。

こども達の数が減っていることを勘案しても、委員さんご質問の発生率につきましても、下がっている状況です。

先ほど話のあった総合的な不登校対策にしっかりと取り組みながらも、必要なところを拡充していきながら、こども達のニーズに応えられるように取組みを進めていきたいと考えています。

○司会 ほかにご意見やご質問はございませんでしょうか。

○上原委員 先日、小中一貫教育の研究会に行っていました。基本目標1の中での「9年間を見通した越谷教育を推進する」に大変期待しているところですが、その研究会の様子を見ていて思ったことは、私は栄進中学校区と千間台中学校区に伺いましたが、授業の中で、栄進中学校区は栄進スタイルというところを採用されており、個別最適な学びや、グループワーク等を大切にされておりました。

それを拝見していく中で、まず1つ目に、授業において安全を確保していると感じたことと、こども達がとても楽しそうに授業に参画している様子を見ました。男女も仲がいいと思いましたし、どの学年においても小学生も中学生もグループワークや、ダンスをつくり上げるというようなことに対し、みんなが力を合わせていました。

そのような学校運営、学級運営をされていると、学校に行きたいと思い、学校が楽しいと思っていく中で、不登校というのは減っていくのではないかとこのところを感じ取ってきたところです。

また、わくわく感ある授業ということをここに掲げていらっしゃると思うのですが、こども達がそう感じるということは、先生方もそのようにお感じになって授業に取り組まれており、学校全体が健康度を上げる

というようなことも感じてまいりました。

一方、私は教職を担当しておりますので、大学で教職課程を取っている学生に、今回の研究会のことを提案したときに、ぜひ参加したいと学生が手を挙げましたので、千間台中学校に伺いました。

大変多くの先生が参加しており、活気があって、熱気があって、学生はすごく感銘を受けて、今後の教員生活に夢を持って帰ってきたように感じました。

このような学級経営もされているということで、今回の9年間を見通した越谷教育の中の小中一貫教育の研究の推進に関しては大いに期待を申し上げ、それがひいては不登校に関する対応にもつながっていくのではないかなということを感じています。

それから、先ほどから、学校への専門職等の配置のお話があって、予算上の制約はもちろんあると思うのですが、それを置いておいても、それぞれができることとできないことはあると思うので、その専門職が、また学校が、家庭ができることを明らかにした上で、できないことももちろん明らかにした上で、それぞれが役割を果たしていくことが重要なのではないかなということを感じています。

学校運営の中で、2つの学校に伺って思ったのは、やはり学校運営は人材であると感じましたので、どういう人がそこにいて、どういう頼りになる大人たちが子ども達の周りにいかに多くいるかなということが重要なのではないかなということを感じているところです。

○福田市長 学校は、最後は人材というお話をいただきましたけど、本当にそのとおりだと感じています。これからを背負っていく子ども達に指導する先生たちがいい人材であれば、子ども達もさらにいい人材になると私も思っています。

どうも近年は教師に対して良くないイメージが先行している気がしますが、やりがいがあり、子ども達にとって憧れの職業であるため、教員に対する人材教育はとても大切であると考えています。

○野口教育長 いろいろお褒めの言葉もいただいて、ありがたい限りです。

私も最近「教育は人なり」という、教育界ではよく言われる言葉があるので、先生方の人材育成を図っていくことが本当に重要であると思っております。

研究発表会へ行くたびにこのように感じますので、このようないい教員をこれからも育てていきたいと思います。これは、学校運営の中でできることですので、校長先生方にはぜひお願いしたいなと考えていまして、今でも校長会等ではお願いしているところです。

それから、教育委員会としては、今後の小学校、中学校の在り方や、あるいは給食センターの方向性、これは相当予算を要するものなので、慎重に検討しつつ、計画立てていかなければなりません。

特に給食センターについては、毎日2万数千食を作っており、今年度7月にボイラーが壊れてしまい市民の方にご迷惑をおかけしたので、何とかしなくてはいけないという気持ちは教育委員会としては非常に強いところです。

それから、学校についても、川柳中学校が再来年に開校するので中学校は16校になります。公共施設の配置等についても、考えていけないといけない時期に来ているということは実感しております。

昭和40年代や50年代に建てた校舎が相当傷んできているので、老朽化の問題が出てきます。学校現場からも心配の声が届いていますので、今後も重点的に取り組んでいかななくてはならないと考えております。

○司会

ほかにご意見等はございませんか。ないようでしたら、次に進みます。

続きまして、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」について、教育総務部から説明をお願いいたします。

○小泉教育総務部長

それでは、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」についてです。こちらは、生涯学習の分野における取組となっております。

「施策の方向1 生涯にわたる学びを進める」でございますが、施策「生涯学習活動の充実と学習成果の活用」では、各種学級、講座等に新たにオンライン講座に加え、「多様な学習機会の充実」に努めるとともに、「科学技術体験センター事業の充実」では地域の企業と連携した特別講座を開催するほか、AIロボットを活用した市内小中学生向けのプログラミング講座等を実施するなど、事業の充実に努めてまいります。

次の施策「図書館サービスの充実」の「図書館機能の充実」では、図書館システムの更新及び運用保守、読み放題パックなどを含めた電子書籍の整備など、システムの活用による利便性の向上に努め、空調用電源改修工

事等の実施など、居心地のよい空間の提供に努めてまいります。

また、「野口富士男文庫の運営」では、展示スペースを整備し、野口富士男文庫の周知と活用に努めてまいります。

次に、「施策の方向２ 文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する」でございます。施策「特色ある伝統文化の振興」の「こしがや能楽堂を拠点とした伝統文化の推進」では、能楽愛好者増加に向け、参加者のレベルに合わせた能楽体験など、伝統文化を鑑賞、体験する機会の提供に努めてまいります。

次の施策「文化財の保存と活用」の「文化財調査活動の推進」では、北川崎の虫追い調査報告書の刊行などを実施してまいります。

○司会 ただいま基本目標２について説明がございました。この部分につきましえ意見交換をしていただきたいと存じます。

まず初めに、福田市長、いかがでしょうか。

○福田市長 意見になりますけれども、文化について最近越谷市では、秋まつりなど、もともとあるものをしっかり守っていこうという動きが加速していますし、こういったものは失ってしまうと二度と元に戻らないこともあるので、市としてもしっかりサポートしていきたいと考えています。

昔ながらの伝統を守っていくということが、越谷市のこども達に伝わって、郷土愛の醸成が図られ、長い目で見れば越谷市に住んでくれる方、残ってくれる方が増えると思いますので、力を入れていきたいと考えています。

○司会 委員の皆様からほかにご意見がございましたらお願いいたします。

○山口委員 野口富士男文庫は、年報を出していて、著名な方の講演の記録などもあったと思いますけれども、なるべく多くの方に買っていただくということも大事だと思います。

一方で、１年間過ぎて最新号ではなくなってしまったものを、例えば無料でPDFとしてネット上で見られるようにすることもいいのではないかと思います。こういった取組みは今どうなっているのか、またこれからどのようにしていくか教えてください。

○濱田図書館長 野口富士男文庫につきましては、委員さんのおっしゃるとおりでございまして、１年間に１回講演をするほか、小冊子、野口富士男文庫を発行しております。

野口富士男文庫の運営委員会の委員からも同じようなご提案をいただいております。我々としても、小冊子につきましては関連する団体や、ほかの図書館からの要請があれば、無償でお渡しさせていただいている状況です。

インターネット上の公開となりますと、著作権の問題がかなり煩雑でございまして、その辺りをクリアしていかないと公開というのが難しい事情があるため、この辺りにつきましては調査研究を継続してまいります。

○野口教育長　市長さんから秋まつりについてもお話がありましたし、山口委員さんから野口富士男文庫の話も出ておりましたので、これを大切にしていきたいと思っております。

最初の多様な学習機会の充実ということで、生涯学習事業の実施について拡充で出させていただきましたけど、校長会でこういった話はさせていただいています。

図工や体育、音楽など、生涯学習の観点では非常に大事な学習なのですよという話を校長先生方にさせていただいたことがあるのです。と言いますのも、定年退職して、人生で一息ついたときに、過去にこのような学習をしたからこそ生涯学習や習い事を始めようと考えていただきたいので、様々な事業のメニューを用意するというのは、生涯学習の観点からすると大事だと考えています。

図書館も、本が好きな人がそこに行けるように、オープンな気持ちで開設していくということは大事だろうと思っております。そして、こどもの一生を考えたときに、年を取っても何か自分なりの好きなものがあるということが非常に大事ですので、生涯学習の事業については継続して実施したいと考えているところです。

私の知人の話で、小学校のときに先生から絵が上手だと褒められたことをずっと覚えていて、仕事が一段落ついたら絵を習いたいという人もいたのです。現在は、いろいろな絵画展に出したりして、非常に充実した日々を過ごしていらっしゃいますので、こういうことがきっと生涯学習の一つの基本になるのではないかと考えております。

もちろん野口富士男文庫や秋まつり等について、越谷の伝統的なものも大事にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会　基本目標2に関してほかの委員さんから何かご意見等あれば、発言をお

願いいたします。

○渡辺委員 昔は図書館と言えば、静かで空気がぴんと張り詰めていてというようなイメージがあったのですけれども、例えば私が所属している大学でいいますと、まず入りますと、学生が自由にお話をしているのです。

あとは飲み物が飲めるスペースもあるため、学生も学食が混んでいたりすると、図書館が学生同士で話し合う場となっています。

私の居住地の近隣の図書館には、喫茶ができるようなスペースがあったりとか、パソコンが使えるスペースがあったり、もちろん勉強できるスペースもあったりと、市民の方がいろいろな目的でそこに集まれるような機能も有しています。

だから、お子さんを連れたお母さんが来て、お子さんは絵本を読んでいる、その横でお茶をしているような風景も見たりします。

越谷市の図書館サービスの充実にあたっては、図書館としての適切な機能を備えた空間はもちろんのこと、心地のよい空間の提供というところが大切だと思います。

例えば、普通の椅子だけではなくて、ソファを置いてそこでゆっくり本を読めたり、市民の皆様が来て、そこで一息つけたりするような空間を目指し、越谷市の売りにもなるようなことができるといいと感じました。

○野口教育長 確かに九州の武雄市では、館内でコーヒーが飲めるようになっています。最初は、本にコーヒーをこぼされるのではないかとということで反対の意見が多かったようなのですけれども、実際には大きな問題になっていないと伺いました。

ですから、そういった空間も一つのアイデアとしては検討してもいいのと思いますし、世間的に受け入れられる雰囲気にもなってきています。

○渡辺委員 例えば雑誌コーナーのようなところがあれば、市民の皆様も足を運びやすいかと思います。今でも十分活用されているとは思いますが、ふとそのようなことを感じました。

○濱田図書館 貴重なご意見ありがとうございます。

長 図書館につきましては、築40年以上経過しているということでかなり古い建物になりまして、建設当時はどちらかというと滞在型ではなく、ゆっくり本を見て選んで借りていくというようなスタイルを想定した造りになっております。

1階で本を借りてみて、そこに座って読めるようなスペースは一部提供してございますし、3階に学習室というかたちでオープンなスペースを設置し、ゆっくり本を読んでいただくような場所にはなっているのですが、施設がどうしても古いというところはございまして、こういったハード面の整備というのが求められてくるという現状がございます。

このため、建て替えや大規模改修などに際しては、今回いただいた意見を参考に検討してまいります。

○上原委員 多様な学習機会の充実のところに、就学時及び進学時の説明会における子育て講座の開催がございます。特に就学時においては、初めて学校にお子さんを入学させる保護者の方もいらっしゃると思います。

最近のお母様を考えたときに、共働きの家庭が大変多くなっている状況で、恐らくSNS等で情報入手はできても、保護者同士が顔を合わせる機会というのは少ないと感じていますので、このような就学時や進学時の説明会というのは大変貴重な機会と思っています。

その際に、講演や話を伺うだけではなくて、グループに分かれてお話をするなど、ぜひとも保護者同士が対話をするような工夫というのもあったらいいと考えています。

○川澄生涯学習課長 まさにそういった取組みもさせていただいておりまして、主に県の家庭教育アドバイザーが学校に赴きまして、子育ての大切さですとか、こういった接し方をするというようなお話、講演をさせていただいた後に、何人かでグループをつくっていただいて、保護者同士でお話をしていただくというような場も設けております。

○司会 続きまして、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」について、教育総務部から説明をお願いいたします。

○小泉教育総務部長 次に、資料の下段、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」についてです。こちらは、生涯スポーツの分野における取組となっております。

「施策の方向1 健康ライフスタイルづくりを支援する」でございますが、施策「活動機会の充実」の「障がい者の健康づくりの支援」では、モルック体験会を開催するなど、障がい者も参加できるスポーツ・レクリエーションの活動機会を提供してまいります。

「施策の方向2 スポーツ・レクリエーション活動を支援する」でござい
ますが、施策「スポーツ・レクリエーション施設の維持管理・改修」の
「体育施設の維持管理・改修」では、北体育館の建物の耐震化、LED化、
空調設備及び屋根改修に向けた工事設計の実施を行うとともに、25mプ
ール床面改修工事の実施など、スポーツ・レクリエーション施設の環境の
充実に努めてまいります。

令和8年度に重点的に取り組みたいと考えております内容の説明につい
ては以上でございします。

○司会 ただいま説明がございました基本目標3に関しまして、ご意見、ご質問
がございましたら発言をお願いいたします。

○福田市長 重点事業の「障がい者の健康づくりの支援」ということで、モルック大
会等の開催と書いてありますが、これはいいことだと思います。

ボッチャは市内でかなり拡張してきていて、障がい者のできるスポーツ
といいながら、実際はご年配の方や障がいがない方が普通にやっている
ということが多かったのですけれども、第1回ボッチャ大会は障がいを持っ
ている方もいて、障がいのある人、ない人が一緒に大会に出ていたという
形の、いわゆるインクルーシブスポーツとして、実際そういう大会も開か
れてきています。

モルックに関しても障がい者だけでやるというよりは、インクルーシブ
として、一緒になってできる大会を、もちろん初めから大きく開催するこ
とは難しいと思いますけども、少しずつでもいいので実施していくことが
大事なのだと思います。

一番難しいことは人を集めることであると思いますが、お互いにスポー
ツをしながら理解も深まるというところを目指していただきたいです。

○野口教育長 市長さんから大変貴重なご意見をいただいたところなのですけれども、
障がい者のスポーツといっても、各地区から何人も、例えばモルックとか
ボッチャとかも出てきていただいて、私たちも少し参加させてもらったり
する場面もあったりして、大変いい雰囲気が進められましたので、今後も
継続してやっていきたいと思っております。

やってみると結構難しいのですけれども、楽しかったのも、選手集めや
参加者集めには結構苦勞するかもしれませんが、インクルーシブスポーツ
は機会をつくっていきたいと考えています。

○坂巻スポー

ツ振興課長

今後につきましても、誰でも参加できるようなかたちで運営をしていきたいと考えております。

○司会

最後に、本日の会議全体を通して、委員の皆様から何かございますか。

○渡辺委員

そして、図書館にしてもそうですし、学校教育に関してもそうですが、やっぱり越谷市民の方が本当に越谷市に住んでいてよかったと思えるような、そういうまちになったらいいと感じました。

○福田市長

一番頭を悩ませるのは、予算をどうつけるかということです。

越谷市はまちが急に発展してきて、同時期に公共施設を建設した影響で、更新時期が重なってしまう状況です。本市では、サンシティや市立病院、数多くの学校など大型施設の更新等も控えており、非常に難しい時期を迎えています。

必要なものは伸ばしながら、場合によっては既存のものを縮小しなければならぬというメリハリがすごく大事ですし、特に公共施設は、人口減少も加味しながら、規模を小さくしなければならない状況で、どのように運営していくのが重要であると考えています。

ただ、私も個人的には、こども達というのは将来を担っていくので、投資という言葉が正しいかどうか分かりませんが、渡辺委員さんが言ったように、しっかりとお金をつぎ込むとことで、長い目で見れば越谷市というまちが活性化し、定住率も高い良いまちになるように、バランスについては十分考慮していきたいと思います。

○司会

1 点目、本日の議事録でございますが、ご署名をいただきましたのち、本市のホームページに掲載することにより公表させていただきたいと存じます。

2 点目、次回の総合教育会議ですが、令和8年2月12日木曜日午後2時から開催する予定でございます。詳細につきましては、決まり次第連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の総合教育会議の全日程を終了とさせていただきます。大変お疲れさまでした。

越谷市総合教育会議運営規程第5条第4項の規定により署名する。

市 長

福田 晃

教 育 長

野 口 久男

教育長職務代理者

五十畑 勝己

教 育 委 員

渡 辺 律子

教 育 委 員

山 口 文平

教 育 委 員

上 原 美子